

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アナベルキッズ		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		2026年1月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		2026年1月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・体験型・五感を育むプログラムの充実	・「五感を育む」ことを軸に、自然体験・感触遊び・音楽活動・食育など多様な活動を実施。 ・季節ごとのイベント(収穫体験、ハロウィン、クリスマスなど)を取り入れ、自然の中で学べる機会を提供。 ・体験を通じて、こどもが自分で考え、決定できる場面を増やす。	・地域の施設や専門家と連携し、より多様な体験プログラムを導入。 ・こどもの興味に応じた選択制プログラムを充実させ、主体性を育む機会を増やす。 ・野外活動の機会を増やし、自然とのふれあいをより重視した療育を推進。
2	・職員の専門性とチームワークの高さ	・定期的な職員研修を実施し、最新の支援技術を学ぶ機会を提供。 ・職員間で定期的にミーティングを行い、支援方針の共有と調整を実施。 ・それぞれの職員の得意分野を活かし、チームとしての支援力を高める。	・適切な情報収集により、最新の支援技術やアイデアを取り入れる機会を拡充。 ・職員のキャリアアップ支援を図り、資格取得やスキル向上をサポート。
3	・保護者との連携が密接	・保護者との定期的な面談や連絡を実施し、こどもの成長や支援の進捗を共有。 ・連絡アプリやSNSを活用し、こどもの活動の様子をリアルタイムで発信。	・保護者同士が交流できる機会(座談会・相談会など)を検討し、情報共有の場を充実。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・安全管理、非常時対応情報の可視化不足 事故防止や感染症対策等のマニュアル策定、および避難訓練等は適切に実施されていますが、その内容や結果が保護者様に十分に認知・共有しきれていない面がありました	・情報提供手段の制約 これまでマニュアルは主に紙媒体での整備であり、訓練結果の報告もLINE等による速報が中心でした。そのため、保護者様が「必要な時にいつでも情報を振り返って確認できる」といった蓄積型の共有体制が十分に整っていなかったことが要因です。	・「保護者専用ページ」による情報のデジタル化と蓄積 保護者のご意見を反映し、Webサイト内に専用ページを新設しました。今後はマニュアルの常時公開や訓練記録のアーカイブ化を順次進め、情報の透明性と利便性を高めることで、さらなる安心感の醸成に努めます。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 アナベルキッズ

公表日 2026年2月24日

利用児童数 17名

回収数 17

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16			1		・ご利用児童の安全を最優先に考えスペースをより有効に活用し、伸び伸びと活動できる空間づくりを継続してまいります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1				・今後も分かりやすさにつながる工夫を丁寧に行い、安心感のある場所づくりを継続してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	17					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1				・引き続き活動プログラムが形式化、固定化されないよう努めてまいります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	2	3	5		・現時点では、園同士の直接的な交流行事等は実施しておりませんが、ご利用児が通われている各園との情報共有や連携は大切にしております。必要に応じて交流の機会を増やしていければと考えております。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	3	2	3		・保護者様のニーズに応じた適切な情報提供に努めております。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	17					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	4	4	4		・交流の機会として、ハロウィンイベント等の行事を開催しております。ご利用児本人だけでなく、きょうだいや卒園児、地域の方々にも広くお声掛けを行うことで、豊かな交流の場を提供しています。交流のあり方について、引き続き検討してまいります。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	1				・ご相談や申入れの受付体制については、ご利用開始時の説明等を通じて周知を図っております。日頃からのコミュニケーションを積み重ね、安心してお子様を預けられる信頼関係の構築に努めてまいります。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		2	・事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等の各種マニュアルを紙媒体にて完備し、適切に運用しております。この度、保護者の皆様からのご意見を踏まえ、より手軽に、かつ場所を問わず内容を確認いただけるよう、従来の紙媒体による周知に加え、Webサイト上に「保護者専用ページ」を新設し公開いたしました。今後も保護者の皆様の声を大切にしながら、安心・安全に関する情報の透明性と利便性の向上に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			4	・定期的に避難・救出訓練を実施しており、その様子や結果については、これまでもLINE配信を通じてその都度ご報告してまいりました。今回、保護者の皆様のご意見を反映し、訓練の記録をいつでも振り返って閲覧いただけるよう、Webサイト内に「保護者専用ページ」を新設いたしました。今後は、実施した訓練の結果を順次こちらへ集約・掲載し、継続的に情報を蓄積してまいります。取り組みのプロセスを可視化することで、より一層の安心感を持って大切なお子様をお預けいただけるよう、情報公開の充実に努めてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17				
	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17				
満足度	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17				
	29	事業所の支援に満足していますか。	17				・いつもありがとうございます。家や幼稚園では行き届かない支援、もちつきや野菜の収穫などの体験をさせて頂き、子どもも安心して楽しく通所しています。また体調の変化や、気持ちの変化にも気づいて頂きすぐに対応して頂くなど、子どもの気持ちにも寄り添って頂き感謝しています。残りわずかですが、よろしく願い致します。 ・保護者アンケートの結果、全ての保護者様より「満足」との大変励みになる評価をいただきました。心より感謝申し上げます。個別のコメントでは、「餅つきや野菜の収穫など、家庭や園では経験しにくい体験活動」や、「微細な体調・情緒の変化に気づき、寄り添う対応」について特に温かいお言葉を頂戴いたしました。今後も季節感あふれる体験プログラムの充実を図るとともに、お子様一人ひとりへきめ細やかなご支援を継続して参ります。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		アナベルキッズ				公表日	2026年2月24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・指定基準を上回る床面積を確保しており、利用定員に対してゆとりある療育スペースで支援を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・指定基準に基づいた適切な職員配置を行い、利用児の状況に合わせて手厚いサポート体制を構築している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・利用児の特性に応じ、絵カード等の視覚支援を効果的に取り入れるなど、活動の見通しが立てやすい環境を整えている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動にふさわしい清潔な環境を維持するため、小まめな清掃と換気を徹底している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・クールダウンや個別対応が必要な場合に備え、間仕切り等を活用して落ち着ける空間を適宜提供している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・支援内容に対して反省や目標を明確に掲げ、職員会議での振り返りを通じて見直しを逐次行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者評価の結果を真摯に受け止め、多角的な視点から業務改善に繋げる機会を設けている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・結果については、社内チャット等で職員間の共有を図り、改善内容については、ホームページへ掲載している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・さらなる質の向上を目指し、第三者による外部評価の受審について今後検討を行う予定としている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部研修への参加に加え、その内容を共有する伝達研修や、現場でのOJTを通じて職員の資質向上を図っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・児童発達支援ガイドラインに準拠した支援プログラムを作成し、webサイトにて適切に公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・個々の特性を把握するためのアセスメントを適切に実施し、保護者のニーズを分析した上で児童発達支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・支援会議を通じ、多職種の職員が意見を出し合い、お子様の最善の利益を考慮した計画を策定している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・職員間で計画を常に共有し、一貫性のある支援をチームで提供している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・日々の丁寧な行動観察を行い、利用児の成長や適応状況を継続的に確認している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・ガイドラインの各領域(本人・家族・地域連携等)を網羅し、一人ひとりの課題に即した具体的な支援目標を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・季節行事や「ことばあそび」等の五感を育む活動をチームで企画し、柔軟な支援プログラムを構築している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・プログラムが固定化しないよう、活動終了後の振り返りをもとに内容をアップデートし、豊かな体験を提供している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・利用児の個別課題と社会性の向上を両立させるため、個別活動と集団活動をバランスよく組み合わせる支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日の役割分担や支援の留意点について、ミーティングを通じて職員間で共通理解を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・活動終了後に支援内容や利用児の行動変化を共有し、気付きを次の支援へ速やかに繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・HUGシステムを活用して日々の記録を徹底し、保護者への報告と支援の検証・改善を継続的に行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的なモニタリングを実施し、利用児の変化や保護者の意向に合わせて計画の適切な見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・相談支援事業所の会議等に管理者が参画し、利用児の状況について正確な情報提供と連携を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・地域の保健・医療・教育機関等の関係先と、必要に応じて密な連携を図れる体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・利用児が併行利用する幼稚園や保育園等と定期的な情報共有を行い、相互理解に基づいた支援を推進している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・小学校等への進学に際し、引継ぎや相談を通じた適切な情報提供を行い、円滑な移行をサポートしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		・必要に応じて連携等を図っていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			・ハロウィン等の行事や、地域の有識者の協力を得た野菜の収穫体験を通じ、地域に開かれた活動を展開している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・HUGシステムによる日々の報告や定期的な面談を通じ、利用児の成長や課題について保護者と深い共通理解を築いている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・定期的な面談や送迎時等、保護者と顔合わせをする機会にて都度情報提供を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			・契約時に運営規程やプログラム内容について丁寧に説明し、十分な理解を得られるよう努めている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			・アセスメントや計画同意の際に利用児と保護者の意向を丁寧に汲み取り、意思決定を尊重した支援を行っている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			・作成した支援計画を分かりやすく説明し、保護者から適切な同意を得た上で療育を開始している。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			・定期的な面談や随時の相談を通じ、ご家族の悩みに対して専門的な助言や寄り添った支援を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者の意向も踏まえつつ、保護者同士が交流できる機会の創出について検討している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談や申入れに対して迅速かつ誠実に対応する体制を整備し、安心感のある運営を行っている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・webサイト、Instagram、HUGを併用し、活動内容や行事予定を広く発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報保護方針に基づき、お子様やご家族の情報の取り扱いには細心の注意を払っている。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・特性に応じた情報伝達の工夫を行い、保護者との円滑なコミュニケーションを常に心掛けている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・地域の農園での収穫体験など、地域住民の協力を得たプログラムを積極的に取り入れている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各種マニュアルの策定に加え、水害や土砂災害を想定した「垂直避難訓練」など、立地特性を踏まえた実践的な訓練を実施。保護者専用ページでの情報共有を含め、非常時の備えを徹底している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・絵本を用いた学習や垂直避難を含む避難経路の確認訓練を定期的に行い、防災意識の向上を図っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・服薬やアレルギー等の健康状態を初回アセスメント時に詳細に確認し、最新の情報を常に把握している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・初回アセスメント時の確認と随時保護者からの情報提供にて対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・策定した安全計画に基づき、日々の安全点検や職員への研修を実施して事故防止に努めている。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画の内容を保護者に周知し、万が一の際の連携体制について共通理解を図っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハット事例を都度記録・分析して職員間で共有し、再発防止に向けた対策を講じている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・県社会福祉士会の開催する研修会に管理者が参加し、その後、各職員へ伝達研修を行っている。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・身体拘束は行っていない。	